

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日：10月4日。出席者：田中主査，ほか18名。

1. 17件の論文審査報告があつた。
2. 鉄と鋼第59年第3号に論文12件，技術資料1件を選定した。
3. 書評を1件ならびに国際単位系の解説を依頼することになった。

第8回欧文会誌分科会 開催日：10月30日。出席者：中村正久幹事，ほか8名。

1. 18件の論文について審査報告がなされた。
2. 「鉄と鋼」59年12号より2件の論文について投稿を勧誘することとなつた。

共同研究会

特殊鋼分科会 開催日：10月12日。出席者：西主査，ほか12名。

- (2) 改正JIS規格について
幹事会で問題になつた表現方法について検討を行なつた。
- (2) 自工会協定規格について
来春改正が予定される自工会協定規格についての改正事項，要望事項の検討を行なつた。

第12回耐火物分科会 開催日：9月28～29日。出席者：吉田主査，ほか35名。

当分科会ではこのほど委員構成を事業所代表制に変え討論テーマ分野を工程で見ると製鉄，製鋼，圧延その他に拡げ，従来の加熱炉関係を中心してきたのに対し，大幅な拡大，発展が画られた。今回は再発足の第1回に当たり，検討議題も以下に示すように幅広く取り上げられた。

- i) 熱風炉における耐火物の品質ならびに構造上の問題点
- ii) 造塊（スライディングゲートノズル，スリンガーC.C.，その他）
- iii) 加熱炉
- iv) 耐火物の購入規格，検査，保管について

以上の議題に対し計17件の研究発表があり，活発な質疑応答がなされた。なお第2日に品川白煉瓦(株)岡山工場を見学した。

標準化委員会

第53回幹事会 開催日：9月29日。出席者：木下幹事長，ほか13名。

1. 工業標準案の審議

SC材，H鋼，Cr-Mo鋼など機械構造用の炭素鋼および合金鋼を規格の改正原案を承認した。

2. SIユニットの採用

JISにSIユニットを採用することの適否について過去2回にわたる検討結果から，採用することに反対しない主旨の案文を作成し，工技院に提出することにした。

3. その他

データ・シートの作成。協会規格の制定について検討を行なつた。

普通鋼分科会 開催日：10月13日。出席者：青木主査，ほか12名。

JIS見直しの検討

G3131，G3132，G3112，A5528は，いずれも要改正とすることになり，改正要点についての検討を行なつた。

第47回機械試験方法分科会 開催日：9月21日。出席者：吉沢主査，ほか24名。

JIS見直し検討

JISZ 2201 金属材料引張試験片，Z 2202 金属材料衝撃試験片，G2241 金属材料引張試験方法，Z 2242 金属材料衝撃試験方法について，アンケート結果にもとづく諸問題について検討を行なつた。

第7回鋼質判定試験方法分科会 開催日：9月27日。出席者：村治幹事，ほか17名。

- (1) JIS非金属介在物試験方法

Nb，Ti，Zr系炭窒化物の位置付けを行ない，改正案を作成した。

- (2) JISマクロ組織試験方法

JIS鋼種に対する標準腐食時間についての最終案を作成した。

(3) 上記以外の試験方法について担当会社を決定した。

(4) 硬化層深さ測定方法ほか3規格のアンケート結果について大綱的な検討を行なつた。

第2回薄鋼板に関する規格体系調査分科会 開催日：9月26日。出席者：三佐尾主査，ほか15名。

(1) 薄鋼板の調査対象をストリップミルにより製造された熱延鋼板，冷延鋼板およびこれらを表面処理した鋼板とすることで検討を進めることにした。

(2) 各国の規格体系調査するため，アメリカ(A.S.TM, AISI, API, FS, AAR) イギリス(BS) ドイツ(DIN) ソ連(GOST) フランス(NF)の規格制定状況を調査することにした。